

AFTERNOON TEA

熊本と福岡の県境より

国際医療福祉大学福岡薬学部

貝塚 拓

琉球大学高松岳也さんよりバトンをいただきました国際医療福祉大学の貝塚と申します。高松さんのラボの教授である松下正之先生は私の以前の上司であり、その縁で共同研究などさせていただいております。まずは少し自己紹介をいたします。私の出身は宮城県仙台市ですが、大学進学から熊本大学薬学部に進み博士課程を修了後、化学メーカーの研究所、熊本大学大学院生命科学研究部分子生理学講座の助教を経て2020年4月より現在の所属にて研究・教育に励んでいます。

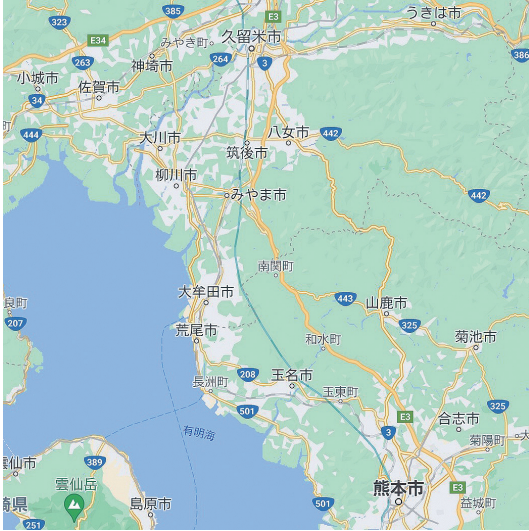
私の在籍する国際医療福祉大学福岡薬学部は2020年4月の開学で福岡県大川市のキャンパスに属しており、2021年9月現在で1、2年次生各100名強が在籍しております。この先数年は毎年新学年が誕生し、その度に新しい講義室、実習室で指導する貴重な時期に勤務させていただいております。大川市は人口約3.7万人の街で家具の生産、いわゆる「大川家具」が有名な地域です。熊本市から車で2時間で大学に至ることができ、その道途中には九州以外の方にはあまり知られていない魅力的な街がたくさんあり、個人的に気に入っています(写真1)。本執筆の機会にその道のと街々をご紹介しますと思います。

まず熊本市から北西ルートで向かうと熊本市北区植木町、玉名市、荒尾市、福岡県大牟田市、柳川市を通ります。北北西ルートで向かうと玉名郡和水町、南関町、福岡県みやま市を通ります。県道31号を通る北区植木町には熊本県の指定天然記念物である巨大な「寂心さんの樟」があります(写真2)。戦国時代の城主である寂心の墓を根元に成長し樹齢800年と言われています。隣には広い公園があり、春には桜がきれいで家族連れで賑わいます。さらにルートを進めると日本最後の内

戦である西南戦争の激戦地であった田原坂が見えてきます。現在、その頂上は熊本市田原坂西南戦争資料館と自然豊かな公園が整備されており、こちらも春には桜の名所になっています。

国道208号に入り(この国道1本で大学まで繋がっています)、さらに進むと玉名郡玉東町を経て玉名市に入ります。JRの玉名駅と新幹線の新玉名駅があり、その2つの駅に挟まれた地域に玉名温泉と玉名ラーメンが軒を連ねる観光地です。玉名ラーメンは豚骨ベースでほんのり甘く、くせになる美味しさです。さらに玉名市といえば金栗四三です。毎年、金栗杯玉名ハーフマラソン大会(昨年は新型コロナウイルスの感染拡大を受けて中止)が開かれておりスポーツが盛んな町でもあります。

続く荒尾市には老舗の遊園地グリーンランドと世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の一つ万田坑があります。グリーンランドは広大な敷地でレトロな遊具がたくさんあり、子供は喜びますが、親は歩きすぎて疲れます。さらに車を走らせると県が変わり福岡県大牟田市に入ります。大牟田市動物園が個人的に気に入っており、綺麗なホワイトタイガーを間近で見れます。また大牟田市庁舎は1936年に建てられたものがそのまま残っており国登録有形文化財となっています。夕暮れ時からライトアップされノスタルジックかつ幻想的な眺めです。その後はうなぎと川下りが有名な柳川市に入ります。柳川市には他に有明海で獲れる、わらすばやむつごろうなどの干物といったグロテスクな珍味に出会えます。さらに進み、家具屋が何軒か現れてくるとそこが大川市です。(北北西ルートにある玉名郡和水町や南関町のご紹介は次の機会にいたします。)



(写真1) 熊本市から大川市 (地図データ©2021 Google)

ところで私のこれまでの研究内容は「脳特異的な熱ストレス応答転写因子の機能と脳神経疾患との関連研究」や「 β 細胞分化誘導技術の開発」などで、研究分野としては神経科学、幹細胞生物学、



(写真2) 寂心さんの樟

分子生物学、衛生化学と幅広く行っています。現在の所属は大講座制で明確な研究室の区分がございませんが、武田弘志学部長の下、様々な分野の先生方と協力しながら研究を推進していこうと意気込んでおります。最後に、本稿の趣旨通り大変自由に書かせていただきましたが、読んで頂いた方ありがとうございます。もし熊本玉名地域と福岡筑後地域にご縁のある方やご興味のある方は生理学会大会などでお話できると幸いです。



夢とねむりとエトセトラ

東京大学大学院医学系研究科機能生物学専攻システム薬理学教室/ERATO 上田生体時間プロジェクト
南 陽一

京都府立医科大学の土谷佳樹先生からバトンを受け取りました。東京大学大学院の南です。土谷先生には大学院の学生当時から体内時計の研究者仲間として、また私の京都府立医科大学在籍時には同僚として、親しく接して頂きました。学生時代の恩師である早稲田大学 柴田重信先生、また研究員や助教としてお世話になった理化学研究所 上田泰己先生、京都府立医科大学 八木田和弘先生、近畿大学 重吉康史先生は、尊敬する学界の先輩であり時間生物学会の先達です。21世紀直前の時計遺伝子が次々に同定され体内時計の分子機

構が明らかになる興奮の中で研究の世界に飛び込めたことは、振り返れば夢のような出来事でした。2021年1月からは現職に就き再び上田先生の下で活動しています。東京大学本郷キャンパスでは祖父が数十年前に眺めただろう光景を、私も見るようになりました。解剖学者だった祖父 中井準之助は、米国留学中に神経細胞培養に成功し動物をとれた喜びや秋葉原で1日1回転するモーターを探し出して神経筋接合部の実験を組んだ話など、楽しそうにしてくれました。その姿に憧れて研究の道を歩み始めた大学院生の頃、「他人の研究

ではなく自分の研究をするように」と助言してもらったことを、機会あるごとに思い出します。

いま所属している教室は睡眠研究を中心に行っています。体内時計の出力でもある睡眠は未だ多くの謎に満ちた研究対象です。人生の約3割を占める睡眠の重要性は大昔から人々に認識されてきました。ギリシア神話では睡眠の神ヒュプノスは夜の女神ニュクスの子で、夢の神オネイロスや死の神タナトスなどがその兄弟です。ヒュプノスの妻は美と優雅さの女神カリテスの1柱パーシター。ニュクスは原始の神カオスの子で全能神ゼウスの祖母、地母神ガイアの姉妹、つまりヒュプノスはゼウスよりも1世代上の神という位置づけですから、「ねむり」が人の根源的な性質の1つと認識されていたことが伺えます。また睡眠が「夜」と強く関連して認識されていたこと、「死」との類似や畏怖、一方で眠りのもつ「優美さ」「甘美さ」が想起されていたことが伺えます。もうひとつ、昼間にも眠気が高まりますが、午睡を好む神はいても午睡を司る神が見当たらないのは面白いことと思えます（生理的な現象だと考えられてこなかったのでしょうか？）。

現在、日本人の多くが睡眠の質や量に何らかの不満・不安を持っているようです。しかし睡眠は主観を伴って表現される生理現象であり、客観的な「健康な睡眠」の定義は存在しません。私の参加するERATO上田生体時間プロジェクトでは、



祖父と、本郷キャンパスに来るとは夢にも思わなかった頃の私。

上田先生の主導の下、睡眠・覚醒リズムをモデルとしたヒトのシステム生物学を展開しようとしています。このプロジェクトでは、例えば多くの方に協力頂くことで統計的に見えてくる「健康な睡眠」像を描出する研究を進めています。難しくも面白い「睡眠」の本質に迫る研究を進めるプロジェクトの成果を、近い将来、学会の先生方にお届けしたいと思います。



指差す先には

奈良女子大学自律神経学講座

池亀 静香

この度、サセックス大学の西村友里先生よりAfternoon teaのバトンを受け取りました。奈良女子大学の池亀静香と申します。西村先生は奈良女子大学の先輩で（別の研究室のご出身にも関わらず）、後輩である私を気にかけてくださり、研究計画書の書き方や進路など色々とアドバイスを頂い

ております。

私は奈良女子大学の博士課程に在籍する学生で、日本生理学会誌82巻2号のAfternoon teaを執筆された吉本光佐先生の研究室である自律神経学講座（旧統御生理学研究室）に所属しています。学部3回生の後期に研究室に配属されてから、

吉本先生と2019年に退官された三木健寿先生(現在は奈良女子大学 共生科学研究センター 協力研究員)のもとで、交感神経活動について研究を行ってきました。現在は室傍核と交感神経活動の関係について研究をしています。自律神経学講座は意識下自由行動下の動物での交感神経活動の測定が“十八番”の研究室ですが、測定するための顕微鏡下での手術はとても難しく、まだまだ習得したと言えるレベルには達していません。免許皆伝を目指し、精進の日々です。

さて、まだ学生の私が何を書こうか悩みましたが、皆さんがよくテーマにされている子育てについて書こうと思います。私は博士1年目に結婚し、昨年出産しました。つわりの中、学会に参加し口頭発表をしたことは今では良い思い出です。出産と育児のために1年間の休学を選択したのですが、修士課程からほとんどの時間を研究室で過ごし、慌ただしい日々を送っていたため、久しぶりにゆったりとした時間を過ごすことができました。

1度目の緊急事態宣言中に誕生した娘は4月から保育園に通い始めました。生後4ヶ月の頃から週に1度大学に連れて行き、いろんな大人に触れる機会の多かった娘は人見知りがほとんどなく、保育園初日から笑顔でした。ほっとしたのも束の間、ついに「お熱です。お迎えをお願いします。」の電話が！それから始まった小児科と耳鼻科通いの日々。本当に子供はすぐに熱を出します。体調を崩すのが娘だけならまだ良い方。自分や夫に移り体調を崩してしまうと、今のご時世、親の体調が良くなるまで登園させられません。1週間休まずに保育園へ通えた週は、入園から5ヶ月経ちますが、わずか数回。1日でも早く免疫力がついて、毎日元気に登園してくれることを願うばかりです。



奈良公園をサイクリング中に大好きな鹿を発見！

昨年の今頃、まだ寝返りもできなかった娘は、最近歩くようになりました。毎日、新しいことができるようになり、その度にとても嬉しそうに笑います。初めて自力で立ち上がった時に見せてくれた笑顔は忘れられません。コロナ禍で制限の多い日々が続いていますが、娘と過ごしていると、彼女が指差す先には新しい発見があり、日常の何気ない瞬間こそが素晴らしいと気付かされます。生まれてからまだ1年ですが、娘からたくさんのことを学んでいます。娘の成長スピードに負けないように、私自身も成長し、研究を進めていきたいものです。

研究と家事・育児に奔走している私を見守り、サポートして下さる三木先生、吉本先生、研究室のメンバーにはとても感謝しています。これからもご迷惑をおかけするかと思いますが、よろしく願いいたします。